



NPO 法人 渋川広域ものづくり協議会 岸邦夫さん

地域づくりのきっかけ

平成10年「ものづくり基盤技術振興基本法」という法律ができ、その時に自分たちも渋川で何かできないかと仲間が集まり、親子木工教室やパソコン教室、フォーラムなどをする「渋川ものづくり協議会」が発足しました。

そんな折、国道17号中村地区中央分離帯の窪地は、不法投棄のゴミ捨て場になっていました。高速道路を降りてすぐの渋川の入口。これではいけないと、清掃活動の一

環として渋川の花であるアジサイを植えました。平成15年から始めて今年で8年目になり、今ではゴミはだいぶ減りました。しかし、まだゴミを捨てて行く人もいるため、今後は一年を通して花で綺麗にすることで完全にゴミをなくしたいと考えています。最近では観光バスも、「アナベル街道」を通るときに宣伝をしてくれ、小野池にも来てくれます。*小野池には年間2万5千人ほどの観光客が来て、「写真撮らせてください」「どこでアナベルの苗が買えますか」と質問していくようになりました。その

ようなことから「渋川フラワーガイドの会」を発足することになりました。小野池の周辺を綺麗にしようと、アジサイ公園に隣接する私有地を借り、その土地の地主さんに道を作ってもらいました。そこに「日本花の会」から寄付していただいた、桜の苗を百本、里親の百人の方と10m間隔で約1kmにわたって植えました。

こういった地道な活動と同時に、会員と農家の方に千個のゴーヤの種を預けて里親になってもらい、育苗をして、それを自治会や学校、一般の希望者に無償で提供して、グリーンカーテンを作る取り組みも行っています。毎年、苗の提供を希望する学校は増え、来年は千粒では不足なくなるかもしれません。その一方で、採れすぎたゴー



アジサイの植樹の様子

ヤをどうしたらいいかという問い合わせが来るようになりました。そこで考えたのが、渋川はコンニャクの生産が日本一ですので、ゴーヤとコンニャクを合わせた「ゴーコン汁」。このネーミングで商標登録をし、渋川発の地域の物産にしようと考えました。このような、小さな活動が地域振興へ繋がっています。本当はそういうものももっと知られるようになって欲しいと思っています。

りますし、情報も貰えます。私も色々な所で勉強させてもらっています。

大切な事は

私たちは、市の花であるアジサイをどうしたら一人でも多くの人に知っていただけるかということに合言葉に、自主参加で活動しています。ボランティアは規制をかけてはだめです。無理強いはいけません。そして、せっかくの出会いなので絆は切らないようにしています。参加する人数も増えてきており、35人がボランティアで毎回出てくれています。真夏など時期によつては朝早くから水やりをしてきている早起き隊という10人くらいのグループもいて、皆さんが主体的に活動しています。

群馬DC中の活動

アジサイの差し芽教室が非常に好評でした。今年は改めてブースを作り、とてもいい形で実施することができました。DC中の活動が大変好評だったため、今後、刈る人と差し芽用苗を作る人に分かれ

て作業し、来年度分の苗の準備を始める予定です。



アジサイの挿し芽教室の様子

これから

一年を通して観光客や市民の方に散策していただけるような里山づくりをしたいです。約1kmにわたり桜を百本植樹しました。この桜は里親の皆さんが手入れをしていて、中には自分の桜の周りに自宅から持ってきた違う花を植えたりにしています。一年を通して花を絶やさないのは、簡単ではありません。そこで1kmの道を7つに分け、一年に一方所づつ整備していきます。時間をかけて夢を叶えるというのも、ボランティアの一つのやり方です。

尊敬する人

小野沢平左衛門。江戸時代に私財を投げ打って村人の水田用水の供給のために、小野池の仕組みを作ってくれた人で、まさにこの地域のボランティアの走り。その偉業が今も繋がって活きているということを伝える碑を作ってほしいと市に陳述書を出しました。市でもその方向に進んでいるようです。

自分をものに例えると

亀。黙々と目的に向かってぶれずに進み、コツコツ歩む。

WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?



次号をお楽しみに!!

*小野池は渋川市渋川(上ノ原)2979のあじさい公園にある
小野沢平左衛門が構築したと言われる面積3,000平方メートルの池。

「花づくりが結ぶ人と地域の縁」

NPO法人 渋川広域ものづくり協議会
渋川フラワーガイドの会 岸邦夫さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介して参ります。第11回目は、渋川で2団体の代表をされている、岸邦夫さんにお話を伺いました。

